

問題 I

- 問 1 a 遼（契丹・キタイ）      b セルジューク朝  
c ガズナ朝                      d エフタル
- 問 2 北面官が部族制で乾燥移動民地帯を、南面官が州県制で定住農耕地帯を統治する二重統治体制をとった。
- 問 3 人頭税ジズヤや地稅ハラージュを負担すれば、ズィンミーとして保護され、宗教や慣習上の自治が認められた。
- 問 4 ヴィジャヤナガル王国
- 問 5 契丹文字
- 問 6 (イ)
- 問 7 軍人や官僚に対して、俸給であるアターに代わり、国有の分与地であるイクターの徴税権を与える制度で、ブワイフ朝以降のイスラーム王朝で採用された。
- 問 8 ペルシア語
- 問 9 アクバルが、ジズヤ廃止などヒンドゥー教徒との融和政策を積極的に採用し、マンサブダール制を通じてヒンドゥー教徒も官僚制度に組み込んだ。社会的にも、ヒンドゥー教とイスラームが融合してシク教が創始された。

問題 II

- 問 1 アウクスブルクの和議
- 問 2 フェリペ 2 世
- 問 3 アメリカ大陸で採掘された金や銀が、スペイン本国に送られ、東アジア・東南アジアに流入した一方で、メキシコ銀もガレオン船によりアカプルコからフィリピンのマニラに輸送され、南シナ海域での中継貿易に利用された。
- 問 4 法令：金印勅書                      人名：カール 4 世
- 問 5 (a) ウィーン包囲                      (b) プレヴェザの海戦
- 問 6 海戦：レパントの海戦              人名：セルバンテス
- 問 7 ユトレヒト同盟
- 問 8 無敵艦隊（アルマダ）
- 問 9 地域名：ベーメン（ボヘミア）  
特徴：当初は神聖ローマ帝国内の新教諸侯勢力が、カトリックを奉じる神聖ローマ皇帝と対立する宗教戦争としての特徴が見られたが、デンマークやスウェーデンなど北欧諸国が新教側で参戦し、さらに旧教国フランスがハプスブルク家との対抗関係から新教側で参戦するに及び、参戦各国が自国の国益を追求する政治的国際対立が特徴として前面に押し出された。
- 問 10 条約：ウェストファリア条約              記号：(イ)

問題Ⅲ

問1 A 2 B 5 C 4 D 3 E 6 F 1

問2 ① C ② D ③ F ④ E ⑤ A

問3 ガンディー

問4 アメリカ＝メキシコ戦争

問5 (1) ナポレオン（＝ボナパルト） (2) スペイン

問6 黒人には、解放後も農地が分配されなかったため、その多くが地主から農地や農具を貸与され、収穫の半分程度を見返りに支払うシェアロッパーとして労働することを強いられ、経済的に搾取された。

問7 ソヴィエト連邦

問8 扶清滅洋

問題Ⅳ

前漢では、地方長官が官僚候補を推挙する郷举里選が採用され、地方豪族の子息が官僚として中央に進出し、儒学の国学化など国家的文化事業も担った。三国の魏で導入された九品中正は官僚職の世襲化を促し、門閥貴族が形成された。貴族は文化の担い手ともなり、特に南朝では貴族文化が栄えた。貴族権力に対抗するため、隋では科挙が導入され、唐にも継承された。科挙では儒学的教養に加え詩作も重視され、唐詩の隆盛につながった。藩鎮勢力が乱立した五代を経て成立した宋では、文治主義が掲げられ文人官僚による統治が目指され、殿試が導入されて科挙が拡充された。唐末五代の混乱の中で没落した貴族に代わって台頭した新興地主層である形勢戸は、科挙を通じて官僚に登用され、儒教的教養を身につけて士大夫と呼ばれる知識人層を形成した。儒学的教養が軽視された元代では、士大夫の文化的活動は民間で結実したが、明代には朱子学が官学とされ、科挙が広く実施され文化人官僚が復権し、地方で文化的・政治的影響力を持つ郷紳も現れ、清代も同様の傾向が続いた。

（下線は便宜上付与）